

7. 防災拠点のネットワーク形成に向けた検討

(幹事機関: 中部地方整備局)

南海トラフ地震防災対策推進基本計画への反映

中部圏戦略会議の取組

▶ 防災拠点のネットワークに向けた検討(連携10課題の7)

◆ 基幹的広域防災拠点

- ・ 司令塔機能 : 三の丸地区 静岡県庁
- ・ 高次支援機能 : 名古屋空港 名古屋港 富士山静岡空港

中 部 圏 戰 略 会 議 の
取組を反映

▶ 南海トラフ地震防災対策推進基本計画(H26. 3. 28)中央防災会議策定

第3章第4節

- ・ 政府の現地対策本部 : 三の丸地区 静岡県庁
- ・ 大規模な広域防災拠点 : 名古屋空港 名古屋港 富士山静岡空港 …… (主な施策)
- ・ 機能は、基幹的広域防災拠点の考えを継続

中部圏広域防災ネットワーク整備計画(第2次案)の主な改訂内容

本整備計画は、「防災拠点ネットワーク形成に向けた検討会」の成果を引き継ぎ、中部圏広域防災拠点ワーキンググループがとりまとめた第1次案に、**基幹的広域防災拠点施設の当面の活用方針及び運用イメージ等を追記**したものである。

- ① 基幹的広域防災拠点の整備に係る検討の進捗を踏まえ、記載内容を修正
- ② 基幹的広域防災拠点が現状で保有する施設・設備について、当面の活用方針を追記
- ③ 基幹的広域防災拠点施設の運用イメージを追記

中部圏における広域防災ネットワークの形成



① 基幹的広域防災拠点の状況に係る記載内容の主な修正事項

三の丸地区

- ・名古屋合同庁舎第2号館において現地対策本部を設置できることが確認できた。
- ・名古屋合同庁舎第2号館については、現地対策本部の活動スペースとして使用できる部屋が中高層階にあり、かつ分散していることや、活動に必要な情報通信機能を確保するための設備が確保されていないことから、現地対策本部がより円滑に活動できる事を目的とした内部改修の方法について検討を進めるものとする。 等

名古屋港

- ・船舶燃料及び車両燃料の確保・供給方法や、海上保安庁の活動に必要な施設・設備の整備について検討する。
- ・拠点施設すべての完成までに10年程度の期間を要するため、現状で利用可能な既存の耐震強化岸壁や、民間施設のオープンスペースの活用等による当面の運用方針についても検討する。 等

県営名古屋空港

- ・航空機駐機スペースについては、既存スペース及び平成25年度末取得予定の空港隣接国有地の活用を検討する。
- ・広域支援部隊の自衛隊部隊の受入れスペースについては航空自衛隊小牧基地での確保を検討する。
- ・航空機等の整備、燃料補給については、民間事業者との協定締結を検討するため、民間事業者との調整を行う。 等

富士山静岡空港

- ・空港内での航空燃料の備蓄拡充(200キロリットルタンク1基増設)を進めることとしている。
- ・平成26年夏頃の事業開始を目途に民間企業が整備を進めている格納庫について、大規模災害時における使用についての調整を進めている。
- ・県外及び海外ボランティアの受け入れ機能として、情報提供、配置調整、宿泊機能を有するボランティアセンターの必要性を検討する。
- ・発災直後における緊急支援物資等の供給機能として、航空機で搬送するため支援物資等の備蓄倉庫の必要性を検討する。 等

②基幹的広域防災拠点施設の当面の活用方針

中部圏における基幹的広域防災拠点の機能の確保状況及び当面の活用方針

基幹的広域防災拠点		施設・設備の整備状況(平成25年度末時点)								各拠点の整備状況
		(1)司令室・オペレーション室	(2)非常用通信手段・発電機	(3)執務室※1 (机、椅子、電話回線など)	(4)ヘリポート	(5)物資集積・荷捌きスペース	(6)部隊宿営スペース	(7)駐車場(大型車両用)	(8)燃料の備蓄・補給施設※2	
司令塔機能に必須の施設・設備										
司令塔機能	三の丸地区	既存施設(名古屋合同庁舎第2号館) 活用予定			周辺施設利用可					H26年度設計着手
	静岡県庁	既設施設利用	既設施設利用	既設施設利用	整備済 (代替施設利用可)					既設施設利用等
高次支援機能	名古屋港		検討中	検討中	検討中 (代替施設利用可)	検討中	検討中	検討中	検討中	要整備
	県営名古屋空港		検討中	検討中 (空港施設利用可)	既設施設利用	検討中 (自衛隊との連携を検討)	検討中	代替施設利用可	検討中	一部要整備
	富士山静岡空港		検討中 (追加整備予定有(H26))	検討中 (空港施設会議室利用可)	既設施設利用	検討中 (既存スペース約20ha)	代替施設利用可	整備済 増設整備中		一部要整備
中部圏全5拠点		利用可	利用可	利用可	利用可	利用可(約20ha) (必要面積:60ha)	利用可	利用可	司令塔機能:利用可 高次支援機能:利用可	



中部圏全体で司令塔機能・高次支援機能を発揮可能

※1 執務室には指揮室・休憩室等の機能を含む。

※2 災害時の航空機燃料(空港)、船舶燃料(港湾)、自動車燃料等の給油機能の確保については、整備場所や管理方法などを引き続き検討。

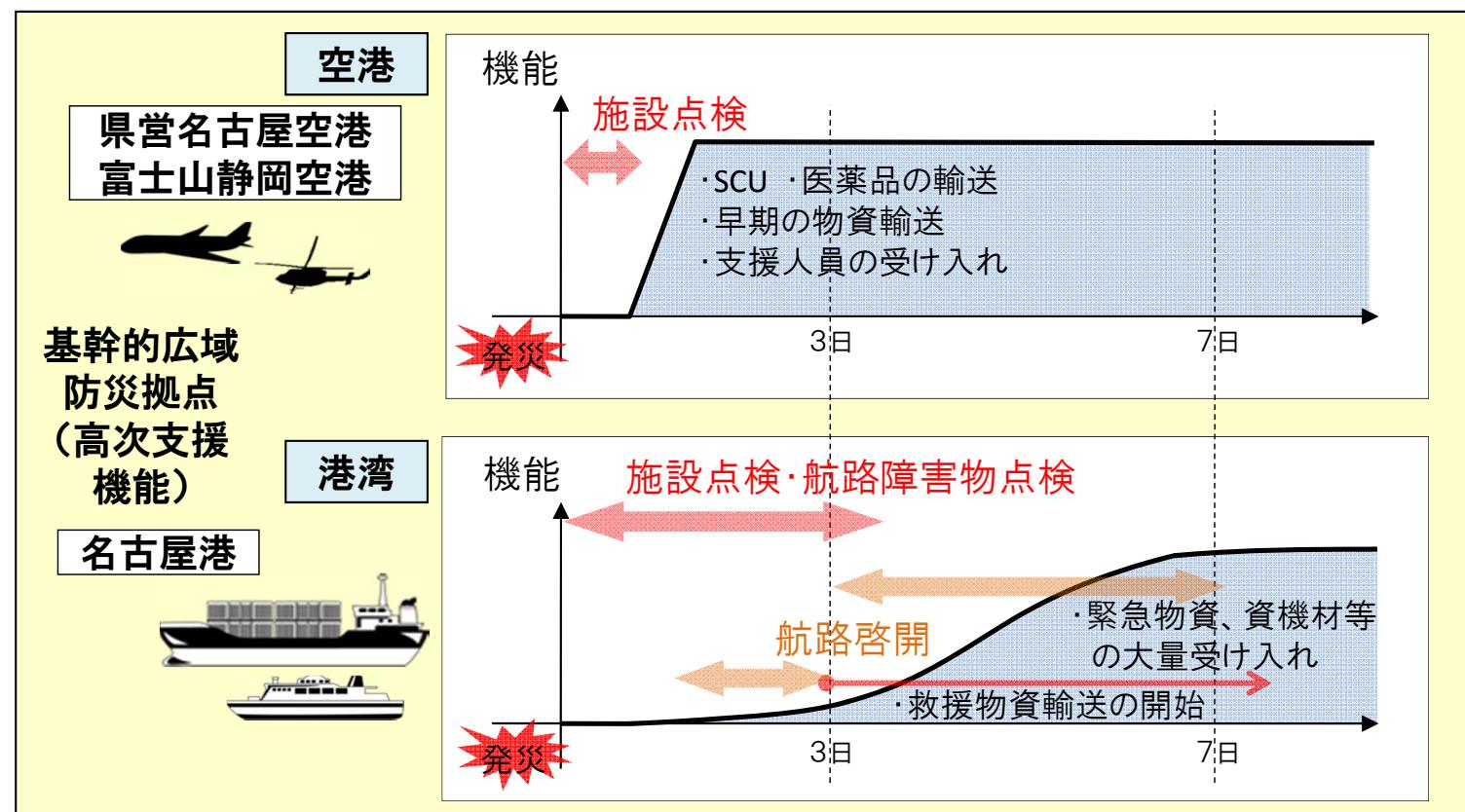
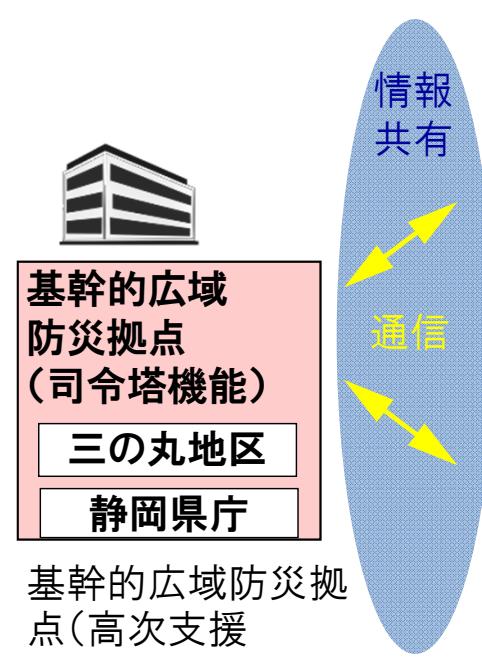
③基幹的広域防災拠点施設の運用イメージ

a) 基幹的広域防災拠点(司令塔機能)

基幹的広域防災拠点(司令塔機能)は、緊急災害対策本部との連絡調整のもと、中部圏の被害情報や広域支援に関する情報の集約・分析を行い、基幹的広域防災拠点(高次支援機能)へ物資輸送や支援人員の配分等に係る指示を伝達する。

b) 基幹的広域防災拠点(高次支援機能)

基幹的広域防災拠点(高次支援機能)は、国内外からの緊急支援物資・支援人員の受け入れ機能や、広域支援部隊の一次集結・ベースキャンプ機能、緊急支援物資の中継・分配機能を有するが、空港と港湾では、拠点としての機能の特性や、機能を発揮する時期が異なるため、各拠点が相互に補完することにより、基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の機能を発災直後から発揮する。



発災後の基幹的広域防災拠点の運用イメージ

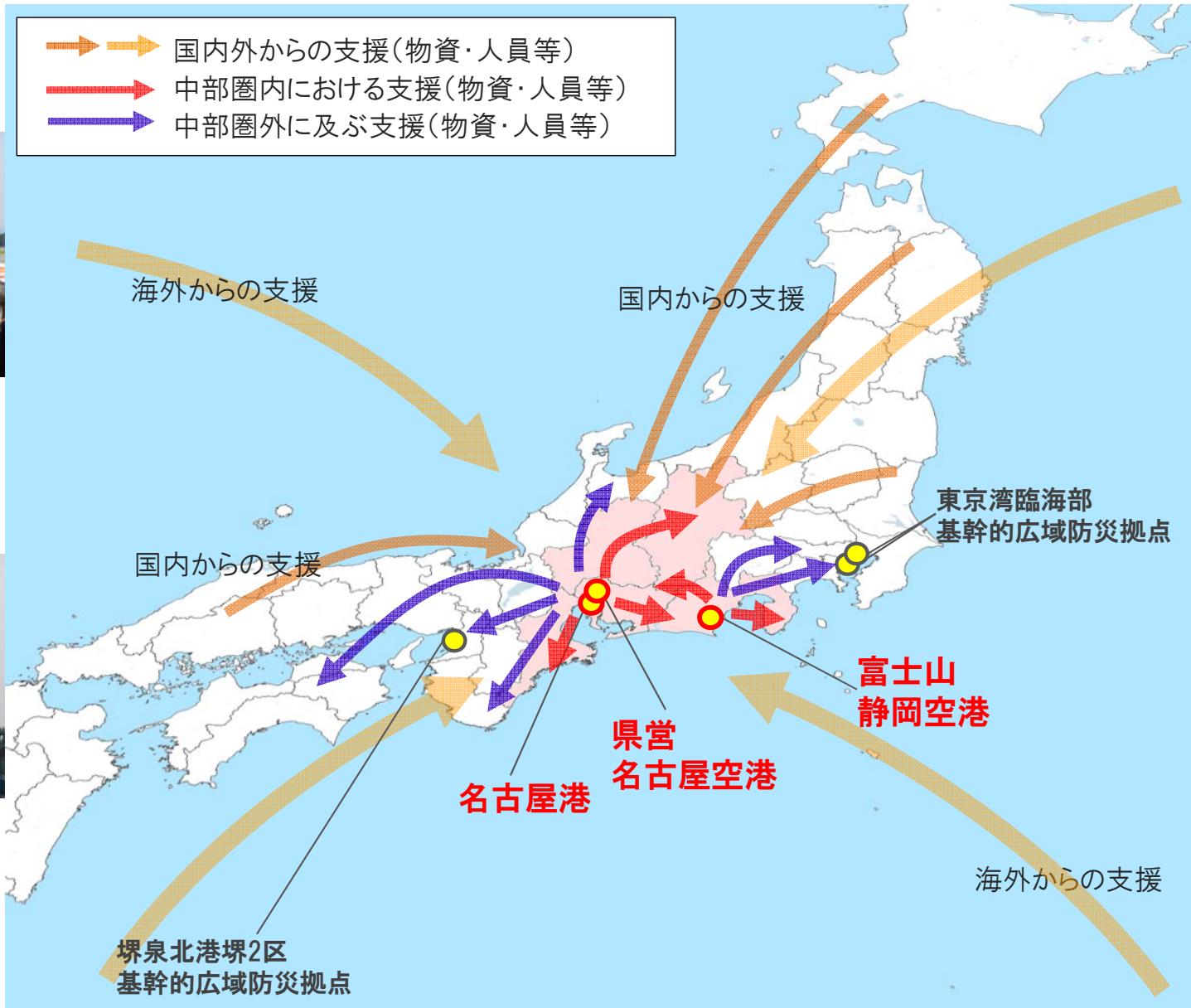
③基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の運用イメージ



県営名古屋空港において
広域医療搬送訓練を行うDMAT
(2013年8月31日)
平成25年南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会「広域連携防災訓練」
写真提供:愛知県



名古屋港において救助搬送
訓練を行うヘリと大型浚渫兼油回
収船「清龍丸」(災害支援船)(2013
年9月1日)
平成25年南海トラフ巨大地震対策中部ブロ
ック協議会「広域連携防災訓練」
写真提供:国土交通省中部地方整備局企画
部防災課



富士山静岡空港における自衛隊
のベースキャンプ設置等訓練
(2012年9月3日)
写真提供:静岡県



基幹的広域防災拠点(高次支援機能)の運用イメージ

今後検討すべき課題

- 広域防災拠点を活用した、広域連携防災訓練の実施によるその機能・役割の検証
- 「災害に強い物流システムの構築に関する協議会」との連携
- 南海トラフ巨大地震対策特別措置法に基づく具体計画等との調整